

人口と世帯	人口	407,855人
	男	201,607人
	女	206,248人
	(前月より)	163人増
世帯	168,244世帯	
(前月より)	195世帯増	
(17年7月1日現在)		

東京都・町田市合同総合防災訓練

防災は一人ひとりの「連携」から



9月1日(木)に総合防災訓練が実施されます。今回の訓練では、より多くの市民の皆さんに参加していただけるように、体験コーナーやパネル展示を多く設けました。

災害が発生した場合「自らの生命は自らを守る」という「自助」の心構えと地域の人々が助け合っ

て「自分たちの町は自分たちで守る」という「共助」の行動が生死の分かれ目を決めてしまうという

でも過言ではありません。個人でできる防災対策として、地震発生時にまず気をつけること

は、ケガをしないことと、火を出さないことです。ケガさえしな

ければ誰にも迷惑をかけずに救出活動もできます。万が一火が出たとしても消火活動ができれば、被害は最小限でくい止められます。大規模災害時には、被害を出さな

い、または小さいうちに対処することがとても重要なことです。

大地震が発生すると、流通が復活するまでに最低3日かかる予想されています。そこで、この3日分の水(1人1日3リットルを目安に)や食料などは、家族みんなで見合、必ず揃えておくよ

うにしましょう。月に1度程度、家族会議を開き、役割や日ごろの準備を話し合うのも良いでしょう。併せて自分たちがどこに避難し、どのように連絡を取り合うかも必ず確認しておきましょう(例・NTT災害用伝言サービスの利用など)。

非常持ち出し品一覽

- 貴重品 防災ずきん・ヘルメット
- 救急医薬品 食料品 飲料水
- ライター・マッチ 缶きり付き
- ナイフ 筆記用具 ライト・ろうそく 携帯ラジオ 軍手 タオル

第5回 境川クリーンアップ 作戦が行われました

町田市、相模原市の両市民の手により境川の清掃を行う「境川クリーンアップ作戦」が、「全国川の月間」に合わせ7月10日に行われました。

この取り組みは、両市民の交流と、地域の環境美化・保全に対する意識を高めることを目的として2001年度から続けられています。

両市の青年会議所、ボーイスカウト、ガールスカウト、地元の町

私たちの力で境川をきれいにしよう

第5回

境川クリーンアップ 作戦が行われました

内会・自治会をはじめ、境川の斜面緑地を守る会、エコネット町田、町田法人会などで組織される「境川クリーンアップ作戦実行委員会」(鈴木五郎委員長)と河川管理者である東京都とが共催で実施し、両市が後援しました。

5回目となる今年は活動エリアが金森の金山橋付近から森野六丁目のひのき橋付近までの約5kmに拡大され、参加者は9グループに分かれてごみの回収作業にあたりました。

当日は約680人が参加し、空き缶やペットボトル、紙ごみなどを中心に約840kgを回収しました。

参加者からは、「市民交流の場として、これからも続けて欲しい」「思ったより汚れていた。これからは自分から進んでごみを拾うようにしたい」などの声が寄せられていました。

この取り組みは、両市民の交流と、地域の環境美化・保全に対する意識を高めることを目的として2001年度から続けられています。

両市の青年会議所、ボーイスカウト、ガールスカウト、地元の町

犠牲者のめい福と恒久平和を祈って 黙とうをささげましょう

1945年8月6日、広島に人類史上初めて原子爆弾が投下されました。さらに、8月9日には長崎にも投下され、太平洋戦争は、8月15日に終戦となりました。

被爆・終戦から60年という長い年月が過ぎましたが、戦争の傷跡はいまだ深く残っています。私たちは、犠牲者のめい福を祈ることを忘れず、戦争のない、平和な世界の実現のために永久に努力していかねばなりません。

そこで、町田市は恒久平和の願いを込めて、1983年2月1日に非核平和都市宣言を行いました。また、1988年2月1日には市役所駐車場入口前に宣言文と広島市から寄贈を受けた旧広島市庁舎の被爆石を組み込んだ宣言碑を設置しました。

市では、財団法人町田市文化・国際交流財団、町田市教育委員会と共催で「被爆・終戦60年平和祈念事業」を行います。詳しくは本紙3面をご覧ください。

問企画調整課 ☎724・2103

せつけん ティッシュペーパー 予備の電池 下着類 シート・毛布 ポリ袋 固形燃料など 背負ったときに両手があくリュックに詰めて、すぐ取り出せるところに保管しておきましょう。また家族構成を考えて用意し、年1回点検しましょう。

市では、消防署、消防団、警察の協力を得て、町内会・自治会などを母体とする「自主防災組織」の育成を進めており、現在市内には約270組織が結成されています。災害発生時に的確な行動を取るには、地域での相互協力による日ごろの訓練の積み重ねが大切です。お互いに助け合い、地域の被害を最小限に食い止められるよう事前に対応方法を決めておきましょう。

町田市長 寺田 和雄
その19
今年もあとわずかです。八月十五日の終戦記念日を迎える。今年はとくに六十周年ということで、あのつらかった戦中戦後を生きてきた人たちにとっては、ことに感慨深い日になるだろうと思う。

ポツダム宣言受諾を送信した 相原の多摩送信所

その送信所は、町田市の西端、相原の山の上にあった。現在は、法政大学多摩キャンパスの構内にあり、当時は、隣接する八王子市寺田(当時は横山村)にかけ、七万四千坪という広大な敷地を有していた。その名を「多摩送信所」という。大戦末期の昭和十九年、本土決戦にそなえ、国際電気通信株式会社によって隠蔽送信所として建設された。当時を知る地元の人たちの話によると、資材不足のため、木造の塔を立て(六十メートル)、アンテナ線を張りめぐらし、数十人の所員が働いていたとのこと。

法政大学が建立した「多摩送信所跡」と記した石碑がある。詳しいことは、その石碑に記されている。その脇に送信塔の基礎となった柱石が遺されていることに注意してほしい。

「当時、わが国の対外通信は、政府関係者以外に、同盟通信社のモールス電と日本放送協会が諸外国語で流す「海外放送」および「東亜中継放送」があった。これらの対外放送は、八月十四日から十五日の間、日本政府のポツダム宣言受諾表明に際して歴史的な役割を果たした。

ここにあった「多摩送信所」も、木造、手動による回転式アンテナから電波を送ることによって、宣言受諾の際の重要な役割を担い、翌二十一年十一月まで活動していたという。以上は碑文の一部である。

折角、ここまで足を運んだ方には、もう一つの平和記念碑もご覧いただきたい。キャンパスの西側、八王子へ至る道路の上の橋を渡ればすぐ左側にある巨大な石碑。校門の守衛さんにも聞いていただければ教えてくれる。十年ほど前の平成七年八月、法政



多摩送信所跡の碑

大学経済学部同窓会の尽力によって建立された。石碑には、同窓部出身の根上淳氏(俳優)の文で次のように彫刻されている。

多くの学生が志なかなばにして軍や工場に動員され 学園と学業を放棄せざるをえない不幸な時代があった 50年前のことである 君たちは決して そのような青春を送ってはならない 一九九五年八月 法政大学経済学部同窓会

根上淳氏は現在健康上の理由で静養されておられるようだが、同窓生も多く学徒出陣されたそうを追悼のため、不自由なお身体をおして、町田へも足を運ばれた。しかし、五年ほど前にも、夫人のペギー葉山さん(歌手)が根上さんの車椅子を押して碑前での記念式典に参加された。私もまた後輩ゆえに駆けつけた。静かない会だった。

ペギー葉山さんは、昨年、「歌う看護婦」と題して、根上さんの在宅介護について手記を出版されている(光文社KAPPA BOOKS)。

根上淳氏のご健康を祈ります。



平和記念碑